

令和7年度 学校評価
自己評価及び学校関係者評価

実施日 令和8年1月22日

○評価 A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

「改善策として考えられること等」の欄には、それぞれの質問項目に関して、その改善策として考えられること等があれば記述します。

領域	NO	評価項目	自己評価	評価の説明及び改善策として考えられること	関係者評価	評価の説明及び改善策として考えられること
組織・運営	1	本校は、目指す学校像の実現に向け、組織的・計画的に取り組んでいる。	A	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの実態に合わせて学校として取り組んでいる。 校長先生が、最初の懇談会の時にあいさつに来て説明したり、学校便りや生活お話し会等で伝えているので児童や保護者にも分かっている。 「ともひびる」のワードを、これに向けて取り組ませ、子供達をよりよくしようと目標を明確化できる。 子どもが「ともひびる」が言えるくらい周知されているのと思う。 行事が反省が例年通りの行事になることがある。毎年検討をしたほうが良いものもある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 目標達成のためにPDCAサイクルを滑走させこれからも取り組んでほしい。 校長先生が4月の懇談会の時にあいさつに来てくださった際、教育目標について詳しく説明していただき分りやすかった。子どもだけでなく先生、保護者や地域の方「ともひびる」という思いがとても良いと思った。またその後の担当の先生から話がありさらに思いが伝わった。 「ともひびる」は周知されている。 今年度「ともひびる」という学校教育目標を掲げられ、学校管理職の先生方のリーダーシップのもと、大変計画的にPDCAサイクルに沿った教育活動を進められていると感じる。
	2	本校は、災害や事故等に対する組織的な体制を整えている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の安全点検があるので、確認ができている。 業者にも研修のできないところがあるので、悩ましいところ。下校やヘルメットに関しては、安全の評価や徹底が難しいと感じる。(家庭にアンケートをとっているわけではないので)避難訓練の他にシエクアウト訓練など他校に比べてよく取り組んでいると思う。 安全点検簿がない場所について、安全点検の見直しが必要となる。 登下校の安全、自転車乗車時のヘルメット着用などは、家庭での問題が大きく、学校でいくら指導をしても、家庭の協力、連携が難しいと感じる。 教室にゴミが落ちていたり、落ち着いた環境で授業に取り組めるようにしていく必要がある。 整理整頓は、使えばなすが気になる。次の人のことを考えて使いたい。子どもたちにも、準備・片付けを学ばせたい。 危機管理マニュアルの内容が毎年増えている。必要な内容をきちんと検討しているから、いざという時分りやすい様さらに見直しも必要である。 不審者侵入訓練は職員が不審者役を行うのではなく、指導をしていただく警察の方がやっていただかないと意味がないと思う。不審者役の職員は学校の職員としての対応をしていないので、次年度以降は改善していただきたい。 備品等が乱雑に置かれていることがある。整頓してくれることもあるが、収納場所が変わっていることがある。変えた場合は周知または、掲示しておくとうい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 自転車の交通ルールについて家で伝えてもあまり危機感を感じていない気がする。4月から厳しくなることもあり、小学生のうちからルールをよく理解できるように警察の方にきてもらっての子供向けの講習会やタブレットでのルールの動画などを見て学べる機会があるとよい。 学校内でマニュアルに沿って訓練等を実施している。防災等も学校、地域、保護者との連携を更に強化してほしい。 教室にゴミや雑巾が落ちていたり、ロッカーの辺りが乱雑な状態で授業が行われていた。整理整頓を心がけ、落ち着いた環境で授業に臨めるようにしていただきたい。 今年度は坂戸市と連携をされて防災について学ぶ行事を引き取り訓練時に実施されており、児童の皆さんだけでなく保護者の方々にも大変参考になる試みだったと感じた。継続的に実施できると良いと思う。
	3	本校は、働き方の改善を推進している。	B	<ul style="list-style-type: none"> ノー残業デーがなくても残業をしている先生が少ない。働きやすい環境だと思う。またノー残業デーに限らず、残業せずに通勤しやすい環境だと思う。 日直の見回り時間は前より短くなったが、まだ、トイレや少人数教室などの窓が空いているときがあるので、各学年で割り振って点検をし、確認をすることを徹底すると、更に速くできると思う。 定時退勤週間の実施は効果的だったと思う反面、実施時期を面談の週間ではなく、事前に協議できるとより効果的だと思いました。 仕事の勤務時間を過ぎた場合、会議の時間が伸びたら必ず確認し、調整の分をお願いしたい。 仕事量が全体的に精選されている。早めに通勤しやすい雰囲気があるが、調整や割り振り変更の取り方がややこしく躊躇してしまうことがある。 仕事量が学年・校務分掌によって大きく異なるので、その負担が偏らないようにできたらいいと思います。 時期や担当により業務負担が偏ることがある。声をかけ合って、助け合いたい。 ライフバランスを考えて仕事ができることに感謝している。ただ、分掌によっては、仕事の量に偏りがあるので、どうしても偏りが速くなってしまう日もある。計画的に仕事をしたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 時間外の勤務が多にならないように先生方の負担が軽減されるようこれからも支援して欲しい。 夕方遅い時間に学校の周りを通る際、学校の電気がついていないことが少なくなったので良かったと思う。男性職員の育児休業取得の実施も素晴らしい。
教育課程・学習	4	本校は、主体的・対話的で深い学びのある授業づくりに取り組んでいる。(市重点項目)	A	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の授業研や定期的な授業を見合っている。ただ忙いからだとは思いますが、空き時間に授業を見に行く先生は少ないと思う。 三校合同研修に限らず、毎月、授業を見る時間が設定されているので、勉強になっている。授業者は、学年との兼ね合いもあるだろうが、経験年数できちんと決まればよい。 外国語の時間は曜日が確定しているため、火曜日が月曜日になると、授業の入れ替えが難しいことがあった。火曜日の時間割も減ることになるので、月曜日の時間割の割り振りを、水～金曜日に割り振ってほしい。 外国語は、勤務の日に振り回りをいれたい。 授業力向上のためには、魅力的な課題をどう提示ができるかを自己の課題としていきたい。 研究主任を中心とした授業研究会で、子どもを見る力から授業力向上につながると思う。 子どもが授業の見直しを持ってできる様研修に努めたい。 授業を工夫されていると思うが、見取りや評価まで全授業で徹底できるとよい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ペアやグループでの学習といった活動を実施し、子どもたちの思考能力を高めようことができるのは、すごい。 研究授業など4時間授業での下校があり先生たちが日々授業向上のために努めていただいていることを実感している。 上級生が主体となった行事運営は素晴らしいと思う。学校でできないことだと思う。先生方の日々のきめ細やかなご指導が子どもたちの学びに繋がっていると感じる。
	5	本校は、豊かな心を育む教育の充実を図っている。	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業で教えると、児童は分かっているが休み時間になると、言葉遣いが気になる。聞いたときにその都度声をかけているが、なかなか浸透せず学校だけでは難しいと感じている。 昨年度よりもあいさつは増えてきているが、まだあいさつをする意識がない児童が目立つので、こちらからあいさつをするようにしている。また、児童間、教師に対する言葉遣いが乱暴な児童が目立つ。 一部児童の適切でない言葉遣いがトラブルのもとになっており、自立できるように感じるが、ケース会議や気づきなどでもきちんと話題に挙げ、対策をしようとしている。こうした取り組みを粘り強く続けていくことが改善策だと思う。個人的には、食事の挨拶についても、きちんとできずにいるクラス・児童について、1月の生活目標に沿って3学期に取り組みたいと感じている。 体育、特活、道徳の主任は経験年数のある教員を当てた方が、豊かな心の充実も回りながら熱活動に取り組めるのではないかと感じる。 今年度より、SOSの出し方やいじめ防止、性教育の授業が各学年で実施され、子どもたち熱心に学習していました。年間計画に位置づけ計画に続けられるとういです。 いじめについてやSOSの出し方についての授業を実施し、改めて、子供達は知識が深まり、SOSをどこにどのように出してもよいのかも理解できた。 いじめ防止、インターネットの適切な活用など系統だてて実施していくには明確な年計などへの組み込みが必要だと思う。 人権週間などの取り組みがよくなったと思う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「いじめや自殺をなくす」の命の授業は大切である。いじめはやられたらやり返す。仕返しをしたら恨みしかない。そうではなくやられても許すということ、和解するということが大切を話してほしい。 挨拶の意識を高めるために標語をみんなで掲げているのはどうか？ 互いに尊重し…ということが無関心になっている可能性がある。授業以外に「一緒にやり遂げる」何か効果的だと思う。 今年度は、あいさつをしても無反応な子どもが多いと感じる。校門でのあいさつ運動は、ただそこにいるだけの子どもも多く、背を向けているなど残念に思うこともあり、先生方の声かけが必要と考える。 保護者や教員評価では、あいさつは低い評価ですが、学校を訪問する際廊下などでは、児童の皆さんとても快く挨拶を下さいます。TPOに応じた態度は形成されていると感じる。
	6	本校は、体罰や交通事故等の不祥事を根絶するための効果的な取組を実施している。(市重点項目)	A	<ul style="list-style-type: none"> 千代田小学校で起きていることは、どの学年のことでもみんなまで対応している。対応しているが、他の学年のことは、知らないことが多いと感じる。活用が効果的である。 威圧的に従わせる指導が本当に少ないと思う。よく話を聞いて、子どもが納得するポイントを探すことこそ、生徒指導だと思ふ。 定期的に倫理確立について話し合いがあるので大きな事故なく過せている。 児童に寄り添った対応を続けていきたい。 指導の仕方や言葉かけの仕方を工夫していますが、相手があることなので、複数で丁寧に対応していることが必要だと思う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 問題や心配事が起こった場合一人で抱え込まずみんなで話し合い、共有することが大切と感じる。 先生方は保護者からの声をよく聞いている。校長先生も心配なご家庭には電話をしてくださって安心している。 体罰については時代の流れは当然あるが、まだまだ報道等で耳にすることも。もう少し強制的なものになる必要性も感じる。
資質の向上	7	本校は、不登校の未然防止や課題解決のための取組を実施している。(市重点項目)	A	<ul style="list-style-type: none"> 問題があったときには、ケース会議を行っているため、対応していると思う。 相談できる体制になっているので心強い。個に応じて対応をしている。 校長先生が率先して不登校児童・問題児のケアを行ってくださっているため、安心して仕事ができるのはありがたい。また、問題があれば相談できる体制も充実していると感じている。ただ、なんでも校長先生やコーディネーター任せになっていないか心配な一面もある。 特別支援教育コーディネーターをはじめとして、全体をよく見て、連携がなされていると思う。 ケース会議は当該児童に対し学期1回程度は開催したらよいと思う。その際の担当者がはっきりしていないこともあったので、年度当初に決めておくとうい。 相談室対応が空き時間を使うことになるので、一部の教員だけでなく全職員で割り振りをしてもいいと思う。 気づきを活用して情報共有、生徒指導・教育相談・就学相談について、1度に確認できる会議の持ち方によって、学校内のことがよくわかる。ただ、働き方を重視されると、放課後にケース会議等ができないので、早期対応ができているのか、心配な時もある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 一人ももれることがないよう、先生方が常に笑顔であいさつし声かけをする。子どもの個性を尊重し一人一人に寄り添ってほしい。 相談できる体制が充実していると思う。一人の先生だけでなく多くの先生が関わって対応していただけることでいろいろな方法が見えてくると思う。
	8	本校は、特別支援教育の充実を図っている。(市重点項目)	A	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援の観点から定期的に資料をいただいているので自分自身も学べている。 必要に応じて、面談をしてくれるので保護者への理解もあると思う。 昨年度は、学年の初めに児童へ向けた特別支援の説明を行っていた。年間計画に入れたり、系統だてたりと計画的に実施できるとよいと思う。合理的配慮がされており、児童は特別支援教育への理解がありますが、保護者には浸透していないと思うので、これからも入学説明会で話していただけたらいいと思う。 中学校の特別支援卒業後の進路についての研修を小学校で、しかも教員も保護者も交えて開催するのはとても良い取り組みであった。 特別支援の児童が安心して生活できるよう努めている。 評価項目で特別支援教育に関する項目が4つもあるのは、とても荷が重たい。 千代田小の先生方は、年々特別支援教育を基盤とした学年経営・学級経営・授業づくりをしており、とてもありがたい。特別支援教育だよりを先生方に出して理解を進めている。また、保護者は、入学説明会での説明の他に、新1年生で特別支援学級に入級を検討している保護者には、要資を作り、丁寧に対応している。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育については研修を増やすことで、より理解が深まると思う。 特別支援教育(特別支援の児童)に対する理解を深めたり、知ったりできるような保護者への便りや説明があるとよい。 学校運営協議会(特別支援)に、特別支援学級の児童の皆さんが来校して学習を進められ、指導にあたられる先生もICT等を活用しながら個別支援を行っていた。
家庭・地域との連携	9	本校は、積極的に家庭・地域等と連携・協働している。	A	<ul style="list-style-type: none"> 地域に開かれた行事は、あまり活動がされていない。 ホームページ、学校だよりは更新され、情報発信がされている。 バザーや防災教育などの行事で保護者との関わりはありと思う。 地域人材については、年間指導計画に明記して、毎年お願いできるようにしたい。どんな人材がいるのか、今年度中にまとめておきたい。 児童の顕著写真使用など写真の取り扱いが難しくなったので、HPはもう少し工夫していく必要がある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちを守るためには地域や家庭の協力が必要で安心できる居場所づくりや、常に励み続け、人を信じ関わり続けることが大切だと思う。 「すてくる」で月ごとの行事予定表を流していただいているので下校時刻等出先でも確認ができることと地域の方(見守り隊)にも知っていただいているのでとてもよい。地域の方にも授業やクラブ活動など見守っていただけたらと思う。 学校のプールがスィミングになったことで、夏季休業中などはできたら勉強を友達とできる日(学校開放)があったらよい。 運営協議会で話した保護者同士のつながりについて懇談会で先生がテーマを出して話したことで知らない方にもたくさん話をする機会となりとてもよかった。子どもたちの授業のようであった。 学校運営協議会の目的を再度全員が確認する必要がある。 すぐへの返信が定着してきて効果的になっていると感じる。 これらも地域に根差した学校になってほしい。朝、地域に出て通学路を回り、保護者や地域の方とあいさつを交わすことも大事である。 環境整備や行事等で地域の方々と連携を図りながら学校運営を進められている。
	10	本校は、小中連携を推進している。	B	<ul style="list-style-type: none"> 小中連携があるので、よいと思う一方、中学校の授業を見に行く機会があっても、中学の先生が小学校のことを見に来ることが少ない気がする。 教務主任を中心に連絡を取り合い、3校で話し合う機会や授業公開を実施していることは素晴らしいと思う。ただ、共通実施できているかは定かではありません。 近隣の小学校で、市内での学習への取組の方向性は同じだが、生活のきまりは明確に示されてなく、各学校の児童の実態に合わせて取組になっている。中学校の取組をもとに共通理解を回り、児童の実態をもとに各校独自の取組をすればよいと思う。 学びの系統性や接続を意識して授業をするためには、お互いの授業参観を推進したほうがよい。学期に1週間、参観週間を設けているので、もっと参観に出かけた方がよいと思う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 小中の連携を密にとることが重要である。 授業や体育祭等に多数の先生方が見に行かれているのですが中学校の先生にもっと来ていただけたらよい。 学校運営協議会委員に千代田中学校長先生が入れられ、協議会や各行事等でそれぞれの学校や児童生徒さんの様子も状況よく共有されている。